

伊豆の国市山木地区ほか公共下水道整備事業

審 査 講 評

令和6年10月

伊豆の国市山木地区ほか公共下水道整備事業
プロポーザル審査委員会

伊豆の国市山木地区ほか公共下水道整備事業の公募型プロポーザルによる最優秀提案について、
当審査委員会における審査の結果を報告する。

令和6年10月21日

伊豆の国市山木地区ほか公共下水道整備事業プロポーザル審査委員会

委員長	森田 弘昭
委員	川上 高男
委員	永野 大輔
委員	守野 充義
委員	古屋 和義

目 次

1. 事業者選定の体制及び開催結果	1
1-1. 事業者選定の体制	1
1-2. 審査委員会	1
1-3. 審査委員会の審査経緯	1
1-4. 事業者選定の進め方	1
2. 審査結果	2
2-1-1. 応募資格の審査	2
2-1-2. 応募資格審査の結果	2
2-2-1. 基礎審査	2
2-2-2. 基礎審査の結果	2
2-3-1. 提案価格の審査	2
2-3-2. 提案価格の審査（価格評価点）の結果	2
2-4-1. 技術評価審査	3
2-4-2. 技術評価審査（技術評価点）の結果	4
2-5. 総合評価結果	4
3. 審査結果の総表	5
添付資料 個別評価	6

1. 事業者選定の体制及び開催結果

1-1. 事業者選定の体制

提案内容の審査にあたっては、伊豆の国市が提案価格の審査及び基礎審査を行った。そのうえで、学識経験者等で構成される伊豆の国市山木地区ほか公共下水道整備事業プロポーザル審査委員会（以下、「審査委員会」という。）が、応募者から提出された提案書類の提案内容の審査及びプレゼンテーション・ヒアリングを行い、最優秀提案者を選定し、伊豆の国市にその選定結果を報告した。

1-2. 審査委員会

審査委員会の構成は、表1. 1のとおりである。

表1. 1 審査委員会 委員

	氏名	所属名
委員長	森田 弘昭	日本大学生産工学部土木工学科 環境工学研究室 教授
委員	川上 高男	日本下水道事業団 ソリューション推進部 次長
委員	永野 大輔	静岡県交通基盤部都市局生活排水課長
委員	守野 充義	伊豆の国市企画財政部長
委員	古屋 和義	伊豆の国市都市整備部長

1-3. 審査委員会の審査経緯

開催された審査委員会の審査経緯は表1. 2のとおりである。

表1. 2 審査委員会の開催日と審査内容

回	開催日	内容
第1回	令和6年8月20日	委嘱状の交付、プレゼンテーション、ヒアリング

1-4. 事業者選定の進め方

伊豆の国市は、応募者から提出された応募資格審査書類及び応募資格要件を審査した。

応募資格要件を有している事業者からの提案書について、伊豆の国市が提案価格の審査及び基礎審査を行い、審査委員会が提案内容及び応募者によるプレゼンテーション・ヒアリング内容に基づいて審査し、最優秀提案者を選定した。

2. 審査結果

2-1-1. 応募資格の審査

事業者は、1グループであった。伊豆の国市は、代表企業及び構成企業が、募集要項に示す応募参加資格の要件に適合しているか審査した。

2-1-2. 応募資格審査の結果

すべての企業が応募参加資格の要件を満たし適格とした。

応募者番号1番 【土屋・石井・中央設計いずのくに下水道整備共同企業体】

代表企業（建設企業）土屋建設株式会社

構成員（建設企業）株式会社石井組

構成員（設計企業）株式会社中央設計技術研究所 静岡事務所

2-2-1. 基礎審査

伊豆の国市は、応募者の提案書に記載されている事項が、要求水準書に定めた水準を満たしているかについて審査した。

2-2-2. 基礎審査の結果

この結果、応募者の提案書に記載されている事項が、要求水準書に定めた水準を満たしていることを確認した。

2-3-1. 提案価格の審査

伊豆の国市は、応募者が提出した提案価格が見積上限価格以内であることを審査した。

2-3-2. 提案価格の審査（価格評価点）の結果

伊豆の国市は、応募者が提出した提案価格に対して、次式により得点化を行い、提案価格が見積上限価格以内であることから妥当であると判断した。

価格評価点の計算にあたっては、少数点以下第2位を四捨五入し少数点第1位とした。

価格評価点=18点×(全応募者の提案価格のうちの最低提案価格(税抜)÷ 各応募者の提案価格(税抜)) +コスト削減に対する提案等による最大2点加点
--

項目	応募者番号1番の得点
見積上限価格	1,322,880,000円
提案価格	1,322,000,000円
価格評価点	18点

2-4-1. 技術評価審査

審査委員会は、応募者によるプレゼンテーション・ヒアリングを実施し、応募者が提出した提案内容に対して、次に示す審査項目及び技術評価点の得点化方法により審査した。

表 2. 1 技術評価に関する審査項目

大項目	中項目		点数配分
(1) 会社概要	①	設計企業の実績	8 点
	②	建設企業の実績	
(2) 提案概要について	①	工事概要	26 点
	②	工事の確実性	
	③	近隣住民への対応	
(3) 設計・施工計画について	①	設計の考え方	16 点
	②	施工計画	
(4) 工期や性能に対する安全性	①	工期の確実性	18 点
	②	性能保証を行うための方策等	
(5) 緊急時の対応	①	緊急事態発生時の対応	4 点
(6) ライフサイクルコスト	①	月間あたりの使用電力量 (Kwh/月)	4 点
	②	ライフサイクルコスト	
(7) その他	①	応募者からの独自提案	4 点
合 計			80 点

表 2. 2 技術評価点の得点化方法

評価	判断基準	得点化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	優れている	配点×0.75
C	やや優れている	配点×0.50
D	特に優れている点がみとめられない	配点×0.25

2-4-2. 技術評価審査（技術評価点）の結果

審査委員会は、前項の審査方法に基づき、以下に示す内容により技術評価点（80 点満点）に対しての得点化を実施した。

前項の審査方法に基づく応募者番号 1 番の技術評価点の合計得点は、52.3 点（65.4%）となり、技術評価点の判断基準を 60%以上としていたため、妥当であると判断した。

大項目	中項目		点数配分	応募者番号 1 番の得点
(1) 会社概要	①	設計企業の実績	8 点	6.1 点
	②	建設企業の実績		
(2) 提案概要について	①	工事概要	26 点	18.6 点
	②	工事の確実性		
	③	近隣住民への対応		
(3) 設計・施工計画について	①	設計の考え方	16 点	10.4 点
	②	施工計画		
(4) 工期や性能に対する安全性	①	工期の確実性	18 点	9.2 点
	②	性能保証を行うための方策等		
(5) 緊急時の対応	①	緊急事態発生時の対応	4 点	3.2 点
(6) ライフサイクルコスト	①	月間あたりの使用電力量 (Kwh/月)	4 点	3.0 点
	②	ライフサイクルコスト		
(7) その他	①	応募者からの独自提案	4 点	1.8 点
合 計			80 点	52.3 点

※事業者選定基準に基づき、技術評価点の計算にあたっては、少数点以下第 2 位を四捨五入し少数点第 1 位とした。

2-5. 総合評価結果

審査委員会は、技術評価点と価格評価点の合計を次式に基づいて算定した値を総合評価点とした。

本事業は、技術的な提案内容を評価する公募型プロポーザル方式を採用していることから、審査委員会は、提案内容を踏まえた技術評価を重視した。

応募者番号 1 番の技術評価点の合計得点は、審査委員会での技術評価の判断基準を満たしており、提案価格においても見積上限価格以内であった。

よって、審査委員会は、総合評価点が妥当であると判断し、応募番号 1 番を最優秀提案者として選定した。

総合評価点（100 点満点）＝技術評価点（80 点満点）＋価格評価点（20 点満点）
--

項目	応募者番号 1 番の得点
技術評価点	52.3 点
価格評価点	18.0 点
総合評価点	70.3 点

3. 審査結果の総評

本事業のプロポーザル募集には、1グループの応募があり、応募資格要件を満たしていることが確認された。

提案価格審査並びに、基礎審査実施後、選定委員会は、提案内容に対して審査項目及び配点に基づき得点化を行うとともに、応募者（土屋・石井・中央設計いずのくに下水道整備共同企業体）によるプレゼンテーションを実施し、考え方や疑問点等について、ヒアリングを行った。

- ・応募者は、地元企業を中心に構成され、提出を受けた提案書も、対象地区の状況を考慮した提案であった。
- ・提案書及びプレゼンテーションにおいて、契約期間内に事業を終了させるための施工計画、近隣住民への対応、維持管理を考慮した施工計画、緊急時発生時の対応のいずれについても具体的な提案があった。
- ・特に、県道舗装工事に同調した工程で設計計画を立案している点、実際の現地状況を確認した上での計画立案、地元住民への交通への影響を考慮した施工方法についての計画が明示されており、設計施工一体型の長所が活かされている提案で優れていると評価した。
- ・事前調査の実施は評価するが、プレゼンテーション時の質疑に対する回答については、若干曖昧な点があった。
- ・事前の現場確認については評価した。事業計画の見直しを考慮している点も評価した。掘削規制に関する理解もよく、事業全体（費用の面も）を理解できており評価した。県道の舗装（本復旧）については県道改良工事との同調施工のため、道路管理者との按分による費用負担減を考慮している点などは評価できた。地震時のマンホール浮上対策・管路の埋戻しについて、言及があるとよかった。
- ・現場確認が説明から理解できている点を評価した。施工する事業者は市内、設計者は市外であるが、市内に下水道事業経験者を配置するような回答もあり、評価できた。
- ・現場確認の実施の必要性を理解している点を評価した。性能保証の部分については今後理解を深めて頂きたい。
- ・本事業を実施するにあたり、伊豆の国市と事業者間で十分な協議を行い、本事業が適切且つ効率的に実施されることにより、下水道未普及地域の早期解消が図られるとともに、地元企業の参画により、地域経済の活性化に資することを期待するものである。

また、当委員会における付帯意見を踏まえ、実施設計において合理的な根拠に照らした十分な検討・検証を行うとともに、早期の供用開始の実現に向け努力されることを望むものである。

<付帯意見>

- ・提案内容には道路管理者等と協議を行っていない事項があるため、その実現について事業完了時に検証を行うこと。

添付資料 個別評価

大項目	応募者番号1番
(1) 会社概要	<p>設計企業の実績については、推進工法を含む下水道管渠実施設計業務の実績と下水道管渠工事の施工監理実績をそれぞれ複数有していると判断した。建設企業については、下水道管渠工事について推進工法を含む実績を複数有していると判断した。施工規模に関して議会の議決承認が必要である大規模工事の実績も確認できた。</p>
(2) 提案概要について	<p>実施設計の期間が1年、施工期間が2年の工程計画で、掘削～仮復旧までと、本復旧の時期が重ならないように計画されていたことが優れていると評価した。</p> <p>県道舗装工事に同調した工程で設計計画を立案している点、実際の現地状況を確認した上での計画立案、地元住民への交通への影響を考慮した施工方法についての計画が明示されている点について、設計施工一体型の長所が活かされていると評価した。</p> <p>近隣住民対策として、地元説明、施工時の交通規制について具体的な対応方法を提案されていたことを優れていると評価した。</p>
(3) 設計・施工計画について	<p>設計計画について、設計手順に対する作業期間の明示に加え、設計計画時に道路管理者や地元住民への影響を見込んだ施工方法について明示されており、設計施工一体型の長所が活かされている提案で優れていると評価した。</p> <p>施工計画について、整備面積が大きい山木地区および小坂地区に関して、複数年整備する計画で、各年整備後に供用開始できる計画となっている点が優れていると評価した。</p> <p>下水道を経済的に普及させるために推進区間の削減のための露出配管が提案されていることが優れていると評価した。</p>
(4) 工期や性能に対する安全性	<p>設計時に試掘調査を行うことで、施工時の手戻りをなくす計画を提案されている点が優れていると評価した。</p> <p>交通誘導員の配置計画について、一般部、交差点部で具体的な配置計画がされている点および交代要員を考慮している点を評価した。</p> <p>性能保証については、具体的な内容に乏しかったため、実施設計時はチェックリストの活用、施工時は施工計画、工程計画、品質管理を重点的に管理すること期待する。</p>
(5) 緊急時の対応	<p>緊急時の対応として、具体的な緊急連絡体制図の提示および施工時の大雨、出水、強風などの異常気象や地震発生時に対して、具体的な作業中止基準や対処方法が明示されている点を評価した。</p>
(6) ライフサイクルコスト	<p>基本設計時に計画されているマンホール形式ポンプ場に対して適切な出力計算および電力量が算出されていた。</p> <p>維持管理の内容で、腐食環境下である圧送管吐き出し先路線を最重要管路と位置づけていることが優れていると評価した。</p> <p>点検、調査の頻度を最重要管路、一般管路と分けて提案されている点が優れていると評価した。</p>
(7) その他	<p>取付管の水路上越し計画が提案されているが、測量結果次第では採用できない可能性があるため、実施設計時に留意が必要である。</p>

